

新潟県立図書館における
市町村立図書館支援サービスの史的研究
Historical research on the Niigata Prefectural Library's
support services for municipal libraries

学籍番号：201021751

氏名：根岸拓也

Takuya NEGISHI

近年、都道府県立図書館（以下「県立図書館」という）は、地方財政の悪化等による行政の効率化によりその役割の見直しが行われている。その中でも県立図書館の第一義的な機能である市町村支援サービスは、その時々々の県内の市町村立図書館の発展状況等に影響を受けていると考えられる。そこで本研究では、県立図書館の役割の捉え方とサービスを歴史的に調査し、その発展に影響を与えた要因と時代の変化に左右されない役割やサービスを明らかにし、今後の市町村立図書館への支援の方向性を考察することを目的とした。

調査方法は文献調査を用い、調査対象は新潟県立図書館とした。文献調査では、まず県立図書館に関する答申や論文等の資料を基に県立図書館の役割について整理し、また本研究で用いる市町村支援サービスと時代区分の枠組みを設定した。次に新潟県立図書館を含む新潟県内の公共図書館関係の年報や広報誌等の資料を基に、図書館法が施行されて県立図書館が誕生した1950年から現在(2012年度)までの新潟県内の公共図書館の発展の歴史を整理し、現在新潟県の図書館が抱える課題として町村立図書館設置率の低さ、図書館間の格差を明らかにし、また全国的に見て新潟県内の公共図書館が長年低い水準で推移してきたこと等を考察した。次に市町村支援サービスの枠組みに基づき、新潟県立図書館が行ってきたそれらのサービスと市町村立図書館への支援に関する方針・役割を時代区分ごとに整理し、それらの特徴や、各市町村立図書館への支援サービスの変遷をまとめた。

これらのことから、県立図書館の市町村支援の変革に影響を与えた要因として県内公共図書館・公民館図書室の発展等があることを明らかにした。また時代の変化に左右されない方針・役割やサービスとして県内図書館ネットワークの中心・事務局としての役割とその役割の中で行われた情報提供や職員研修機能があることを明らかにした。そしてこれらの側面から、新潟県内公共図書館の抱える課題を改善するための今後の新潟県立図書館の市町村支援の方向性について考察した。その結果、これまで県内公共図書館等の発展に即して提供してきた市町村支援機能を、小規模図書館等の発展に合わせて大量一括貸出等のサービスを充実させ、住民への貸出サービスの向上に資することが必要であることを指摘した。一方で大規模図書館に対しては、新潟県立図書館の人的資源を生かし、これまで一貫して行ってきた図書館員への情報提供等の支援をより充実させ、高度な図書館サービスの運用に資することが必要であることを指摘した。

研究指導教員：平久江 祐司
副研究指導教員：吉田 右子